

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名	長崎県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	有明町立高野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	14	11	23	12	18	17	0	95	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び 自ら考え 生き生きと活動する子どもの育成
 ~算数科における個に応じた支援を中心に~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。
 全学年 算数科
 平成4年度から継続して算数科の研究に取り組んでいる実績があるため

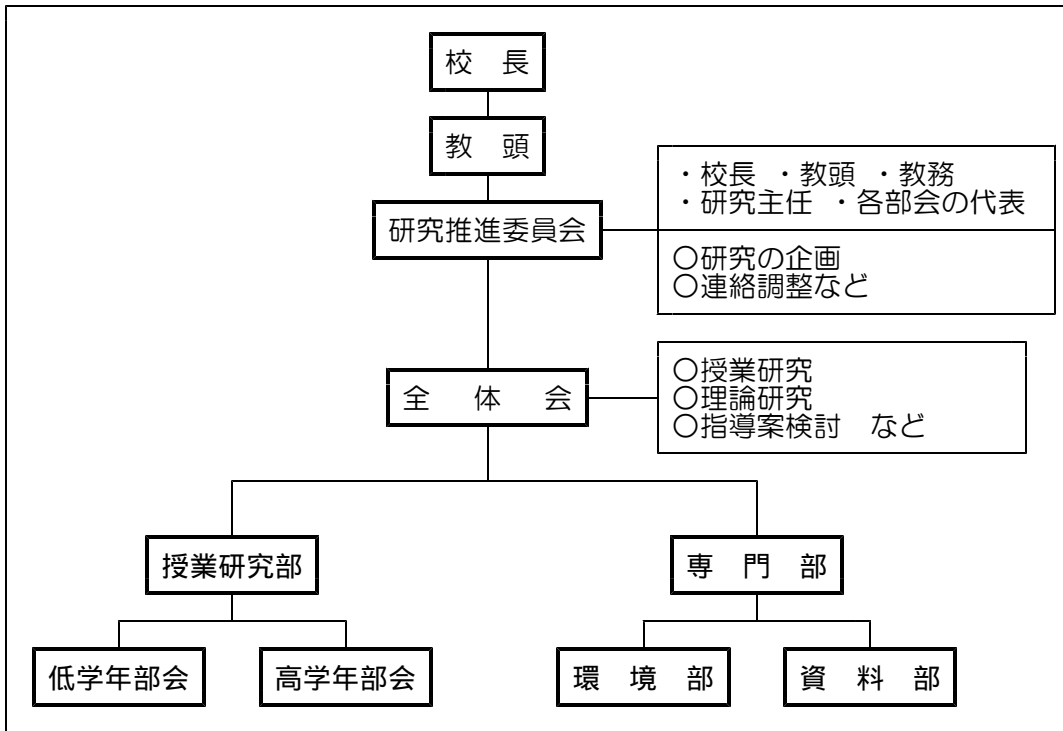
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら考えいきいきと活動する子どもの育成 ~算数科における個に応じた支援を中心に~</p> <p>仮 説 少人数指導(担任2人制など)を実施すれば、個に応じた支援がよりきめ細かにでき、子ども一人一人にとって分かる授業となるであろう。指導的T2を配置すれば、教師一人一人の授業力・指導力が高まり、子どもたちの学力向上へつながるだろう。算数タイムや学びタイムの時間を日課に位置づけ、繰り返し学習等を行えば、計算力をはじめとした基礎的基本的な学力が育成されるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 授業研究会(低・高) 校内授業研究会 ・ 講師招聘授業 ・ 全体授業(2回) ・ 部会授業(6回)</p> <p>専門部 ア 理論研究部 ・ 授業をととした理論研究 【問題解決的学習, 少人数授業(TTを含む)のあり方など】 ・ 月例テストなどの評価テストの研究 イ 環境整備部 ・ 算数的環境づくり</p>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 自ら学び 自ら考え 生き生きと活動する子どもの育成 ～算数科における個に応じた支援を中心に～</p> <p>仮 説 単元構想を立て、指導体制や学習形態を工夫すれば、確かな学力がつくであろう。 子ども一人一人の習熟度に応じた問題を作成し、実施すれば、子ども一人一人の学力が向上するであろう。 算数タイムや学びタイムの時間を日課に位置づけ、繰り返し学習等を行えば、計算力をはじめとした基礎的基本的な学力が育成されるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 公開授業研究会（年3回） 校内授業研究会 ・ 講師招聘授業（2回） ・ 全体授業（2回） ・ 部会授業（6回）</p> <p>専門部 ア 資料部 ・ 授業をとおした理論研究 【問題解決的学習，少人数授業（TTを含む）のあり方など】 ・ 月例テストなどの評価テスト（たしかめテスト）の研究 ・ 学力テスト等のデータ収集と分析</p> <p>イ 環境部 ・ 算数的環境づくり</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 自ら考え 自ら学び 生き生きと活動する子どもの育成 ～算数科における個に応じた支援を中心に～</p> <p>仮 説 算数科学習指導において、2人担任制の取組を通して、個に応じた支援や、学習形態の工夫改善をし、わかる授業を展開していけば、一人一人が確実に基礎基本を身につけ、自ら学び自ら考え、生き生きと活動する子どもが育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法 研究発表会（10月中旬予定） 校内授業研究会 ・ 講師招聘授業（3回） ・ 全体授業（3回） ・ 部会授業（6回）</p> <p>専門部 ア 資料部 授業をとおした理論研究 【問題解決的学習，少人数授業（TTを含む）のあり方など】 個に応じた支援のための ・ 個人カルテの作成と蓄積 ・ 系統的なステップテスト作成 学力テスト等のデータ収集と分析</p> <p>イ 環境部 算数的環境づくり ・ 算数クイズ ・ 算数的感覚みがき ・ 算数コーナー 生徒指導的環境づくり ・ ホタルキラリカード</p>
----------------	---

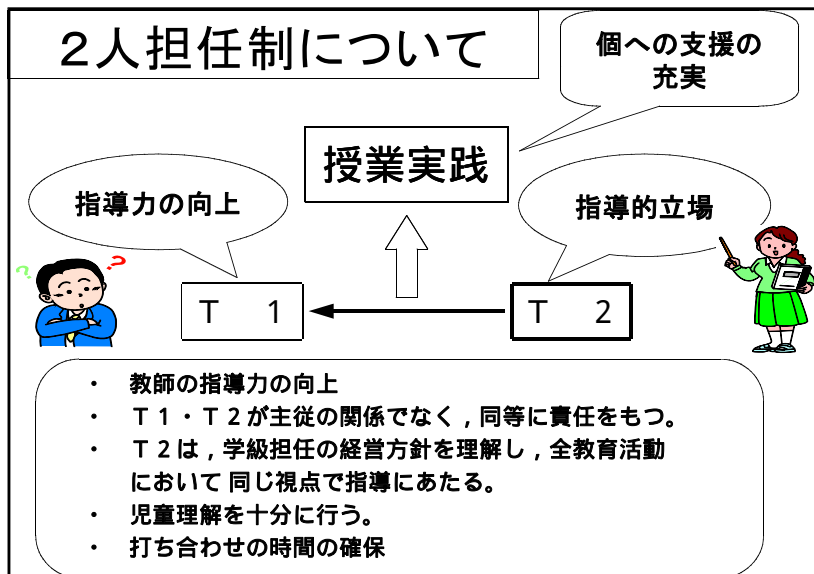
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

2人担任制をとったことで、個々の教師の授業力の向上が図られ、個に応じた支援ができるようになった。



単元構想を立て、単元のねらいや児童の実態にあった指導計画・指導形態を工夫することにより、より細やかな支援ができるようになった。

3 単元構想について

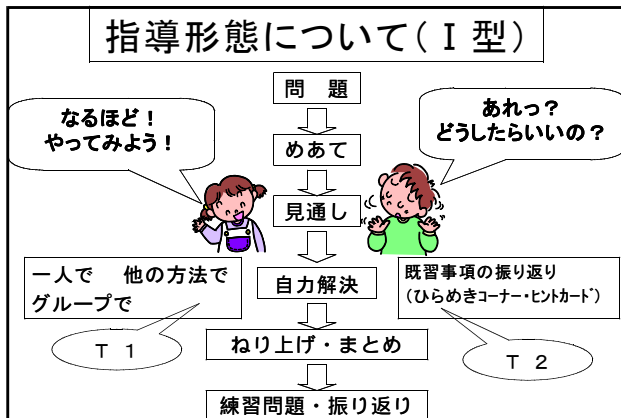
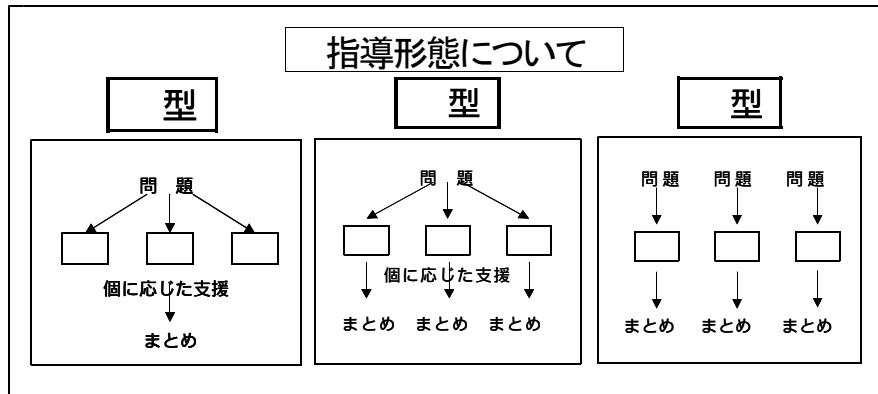
例1 6年生「比べ方を考えよう」

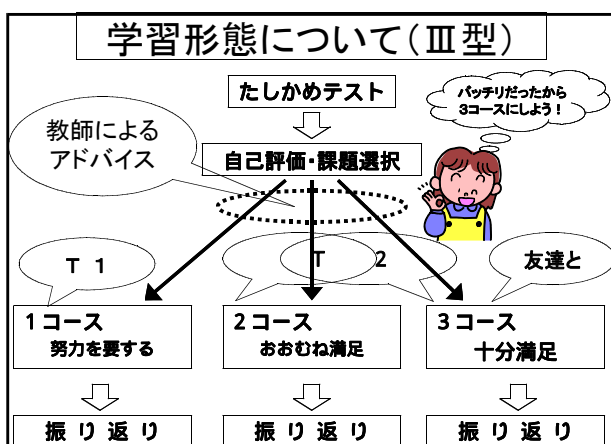
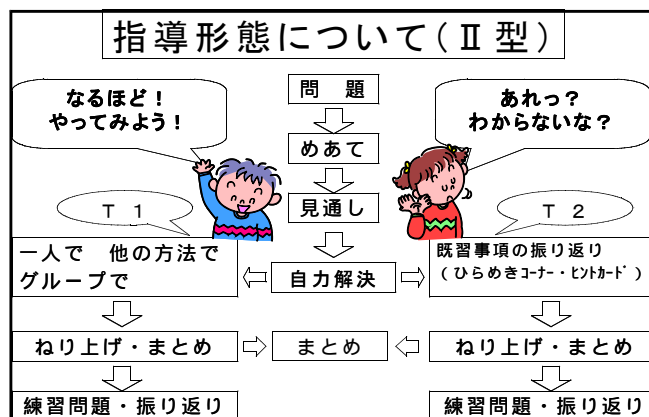
視点

単元のもつねらいについての共通理解
児童の実態に応じた指導内容、指導時間
効果的な支援ができる指導形態

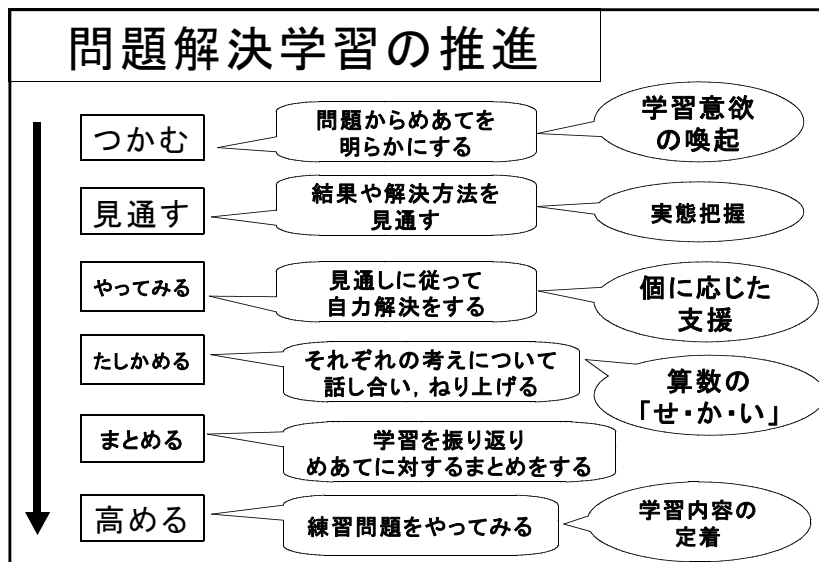
学習計画「総時数16時間(本時8/16)」

小単元	主な学習内容と課題	時数	指導形態	主な評価規準
単位量あたりの大きさ	・面積、人数が異なる場合の混み具合の比べ方 混み具合の比べ方を考えよう。	2		考 単位量あたり考えを用いて、混み具合の比べ方を考えることができる。 表 単位量あたりの考えを用いて比較することができる。
	・「人口密度」の意味とその求め方 有明町と島原市の混み具合を調べよう。	1		表 人口密度を求めることができる。
・たしかめテスト ・単位量あたりの大きさの求め方について復習をし、学習内容についての習熟を図る。 これまで学習した単位あたりの大きさの問題をマスターしよう。		1 1 (本時)		表 単位量あたりの考えを用いて問題を解くことができる。
・速さと道のりから時間を求める方法		1		考 速さや道のりを求める公式を用いて時間の求め方を考えることができる。
・作業の速さについて		1		考 単位量あたりの考えを用いて、仕事の速さなどの比べ方を考えることができる。
まとめ	・たしかめテスト	1		
	・単位量あたりの大きさや速さについての問題を解き、学習内容についての習熟を図る。	1		表 単位量あたりの考えを用いて、速さの問題を解くことができる。





問題解決学習の推進をすることで、子どもたちに学び方が身についてきた。



学びタイム、算数タイム等で個に応じた到達目標に向かって取り組ませたことで、計算力等の基礎的・基本的な力が向上してきた。

2. 今後の課題

- 児童の実態把握の工夫
- ・ 個人カルテの作成
 - ・ 学年を通した系統的なステップテストの作成
 - ・ 単元全体を見据えたきめ細かな単元構成の作成
 - ・ 下位児童への効果的な支援のあり方
 - ・ 発展的な学習の工夫・研究

学力等把握のための学校としての取組

- 定期的な学力テスト（年2回）
たしかめテスト，ステップテストの作成と実施，結果の蓄積

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 年3回の公開授業研究会実施
- 日時及び参加者数
- ・ 平成15年 6月27日(金) 13:15~16:30 参加者数 75名
 - ・ 平成15年10月31日(木) 13:15~16:30 参加者数 69名
 - ・ 平成16年 1月29日(木) 13:15~16:30 参加者数 65名
(年間合計 209名)
- 場 所 高野小学校
テーマ 自ら学び 自ら考え 生き生きと活動する子どもの育成
～算数科における個に応じた支援を中心に～
- 対 象
- ・ 島原教育事務所管内小・中学校
 - ・ 学力向上フロンティア校（長崎県内）
- HP作成
- ・ 平成15年度末までに公開予定
- 研究集録
- ・ 「研究実践のあしあと」の作成及び配布

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無